

令和4年度

進路のしおり I

令和4年6月
進路説明会資料

文京区立茗台中学校 学習・進路指導部

3年 _____ 組 _____ 番 氏名 _____

本校の進路指導に関する基本方針・目標

- 1 生徒の健全育成を図り、希望進路実現に向けて、自己の個性、能力、適性とのかかわりを考えさせ、**主体的に自己の進路を選択・決定していく**ことができるように支援します。
- 2 進学・就職先での生活を第一に考えた進路指導を心がけます。
- 3 第3学年を中心に、**全教職員による共通理解の上で**、進路指導に取り組みます。

本校としては以上のことを大切にされた進路指導を行っていきます。進路指導についての基本的な考え方等について、不明な点がございましたら、教員にお尋ねください。

目 次

本校の進路に関する基本方針	1
進路に関する年間予定	2
第1章 中学校卒業後の進路	
I 進学	3
II 就職	4
第2章 上級学校	
I 高等学校	5
II 高等専門学校	8
III 都立職業能力開発センター	8
IV 専修学校	8
第3章 都立高等学校の概要 別冊『東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ』参照	8
第4章 私立高等学校の概要	
I 私立高校を選ぶにあたって	9
II 私立高校の選抜	9
第5章 奨学金制度	1 2
第6章 推薦制度を利用した受験について（都・私共通）	1 3

進路に関する年間予定

	進路関係	学校行事	高校関係	留意事項
6月	6/10第2回進路希望調査配付 (6/30(水)提出〆切) 6/11 第1回進路説明会 6/29第1回実力テスト	6/4運動会 6/22音楽鑑賞教室 6/24～28 期末考査 6/30ブラインドサッカー	合同説明会 上級学校訪問 (体験入学・説明会)等	
7月	7/4～ 校長先生との面談 7/15⑥高校の先生の話の聞く会 7/21～7/29 第1回三者面談		上級学校訪問 (体験入学・説明会)等	
8月		夏季補充教室		
9月	9/15⑥面接講座 9/29 第3回進路希望調査配付 (10/17(月)提出〆切)	9/16 TeNQ	※学校説明会に積極的に参加し、具体的に進路選定をする	
10月	10/5 第2回実力テスト 10/15 第2回進路説明会 下旬 第1回推薦検討委員会	10/3, 4 中間考査 10/29 学習発表会		10/31 都立高等学校等合同説明会(都立晴海総合高校)
11月	11/2 第3回実力テスト 11/4～11 第2回三者面談 ※面接練習(地域学校協同本部) 11/11第4回進路希望調査配布 (11/21(月)提出〆切) 11/22 受検用写真撮影 11/29 第2回推薦検討委員会	11/15～17 期末考査		※推薦・併願優遇を考えている場合はこの時期に決定する。 11/7 都立高等学校等合同説明会(都立立川高校) 11/14 都立高等学校等合同説明会(都立新宿高校)
12月	12/1～8 第3回三者面談 最終面接練習(地域学校協同本部)		12/15～ 私立入試相談	出願書類等の資料を入手する
1月	入試事前・事後指導		1/22頃 私立推薦入試 1/26・27 都立推薦入試 2/2 都立推薦入試発表	出願書類作成
2月		2/24～28 学年末考査	2/10～私立一般入試 2/21 都立一般入試 (都立一次・分割前期入試)	
3月	進路のまとめ	3/1～救命救急 学年レク 職業講話(PTA) 選挙体験 エーザイ講話 3/10校外学習 3/20卒業式	3/1 都立一般入試発表 都立二次・分割後期募集 都立定時制二次募集	3年間のまとめ

※土曜授業も含め、平日に、高校説明会参加によって学校に来られない場合は、欠席扱いとなりますので、計画的に参加してください。※青字の箇所は、昨年度のものになります。

第1章 中学校卒業後の進路

進路イコール、高校受験ということになりがちですが、その他にも選択肢はいろいろあります。一人一人が個性をもち、条件も違いますから、自分にとって一番適した進路もそれぞれ違います。みんなが高校へ行くから、とりあえず高校に入ろうというのではなく、いろいろな可能性を考えて、一番望ましい進路先に進んでほしいものです。

中学校からの進路についての話は、高校受験が中心になってしまいがちですが、それ以外の進路を考えている場合も遠慮なく相談してください。高校進学についても、わからないことがあったら、積極的に質問してください。自分の進路は、自分で考え、相談し、動いてください。

I 進学

まず何のために学ぶのかをしっかりと理解した上で学校を選ぶことが大切です。

入学後、その学校で精一杯頑張り、充実した生活を送って自分の可能性を伸ばすことが何よりも大切なのです。そこで、ここでは「自分の将来の目標や方針にあった学校」「自分の可能性を伸ばせる学校」などの自分に適した学校の選び方について説明します。

1 学校の内容をよく調べる

(1) 校風や教育目標が自分の希望に近いか。

- ・教育施設は整っているか。
- ・勉強したい希望の学科やコースはあるか、都立か、私立か、男女共学か。
- ・部活動・行事への取り組み状況はどうか。
- ・勉強しやすい環境にあるか。
- ・卒業後の進路（卒業生の進学先、就職先など）はどうなのか。

などを知るために、在学している先輩に話を聞いたり、また直接学校へ見学に行ったり、学校説明会に参加しましょう。

(2) 通学時間を考える。

- ・交通機関と通学時間に無理はないか。（全寮制の学校もある。）

(3) 学費をよく調べ卒業するまでの経済面の相談を保護者としておく。

- ・入学時に必要な金額、それ以外の制服代、交通費、学用品費も考慮しておく。
- ・月々の納入金はどれくらいか。

(4) 入学試験や入学手続きを調べる。

- ・入学試験の日時や科目、面接の有無、手続き、発表、入学金の延納・返納は可能か、また、複数校受験する場合は試験日が重なっていないか、調べましょう。

2 高等学校卒業後の進路を考える

(1) 高校からさらに大学へ進学を希望する人

大学まで進学を希望する人は全日制普通科を選択する人が多いですが、最近では専門学科から進学する人も増えています。なお大学付属校でも全員がその大学へ進める制度になっていない場合や希望の学部・学科に進めない場合もあることを覚えておきましょう。

(2) 高校から専門学校へ進学を希望する人

将来を考えて希望の職種にあった学科を選ぶことが大切です。普通科以外にも、さまざまな勉強ができる専門学科もたくさんあるので、まずはどんな学科があるか調べてみましょう。

☆志望校を選定するポイント

進学を考えている人は、学校を選ぶときに次のポイントをチェックしよう。

(ポイント1) 自分は、学校に何を期待して行くのか

「特定の専門知識・技能を身につけて卒業したら働きたい。」「大学を目指して勉強する。」「ある科目に興味があるのでもっと勉強していきたい。」等、学校に期待することは、一人一人違っているはずです。「学校に何を期待するのか。」それをまず第一に考えてみましょう。期待することも、一つだけではなくいろいろあると思います。そして、多くの学校の中から自分の期待にいちばん応えてくれそうな学校を見つけましょう。

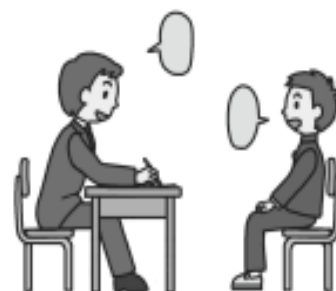
(ポイント2) 自分にあった学校か

学習内容、校風、特色、共学校か別学か、卒業生の進路、環境、部活動、通学のしやすさ、入試制度、学費等が果たして自分にあっていのかを、しっかり見極めた上で学校を選ぶよう心がけましょう。ポイント1がはっきりしていれば、それにそって学校を探して、上記の点を調べると、自分にあった学校かどうかわかります。知名度や標準服などで学校を選ぶのではなく、入学してみて本当によかったと思える学校を選んでほしいものです。学校はたくさんありますが、自分が実際に通うのは、その中のたった1校だけです。説明会や文化祭、見学などで、実際にその学校の様子を見て、よく調べることが大切です。

Ⅱ 就 職

中学を卒業してすぐ就職を希望する場合、学級担任とよく話し合い、適性を考えて公共職業安定所（ハローワーク）を通して最適の職を探します。また、場合によっては各ご家庭の縁故関係を利用して就職する場合もあると思いますが、その場合も必ずその旨をご連絡ください。

都内のハローワークを通して就職する場合は、各中学校に配布される「中学求人一覧表」の中から希望の事業所を見つけて必要書類を提出し、選考を受けることとなります。選考は主に面接ですが、適性診断テストや簡単な筆記試験を行うところもあります。



第2章 上級学校

I 高等学校

長い人生のための人格形成や将来への進路を決めるためには、中学・高校教育は重要です。したがって、学校の選択は一人一人の生徒にとって、きわめて大切なものと言えます。高校を選ぶには、都立・私立を問わず、いろいろな面からよく分析し、自分に合った学校を選ぶことが大切です。まずは高等学校の種類から確認してみましょう。

<設置者による分類>

1 国立高等学校

国立大学法人が管理している学校で、主に国立大学に付属しています。これらの学校はほとんど教育の研究校として設立されたもので、その大学に進学する場合は、私立と違って優先入学の特典がありません。

入学試験は2月中旬が多く、学力検査は国社数理英の5教科実施の場合が多いです。

2 公立高等学校

都道府県、市町村が設置し、管理している学校で、東京都立高等学校がこれにあたります。都内全域から進学したい学校を選ぶことができます。普通科の他にも近年増加している総合学科や、高度な専門知識や技術を得られる学科が多くあります。また、各都立高校は、「本校の期待する生徒の姿」を公表していますので、これに自分が適しているかを考えるめやすにしましょう。

3 私立高等学校

個人や団体などが設立し、学校法人が運営にあたる学校です。各校とも独自の校風・教育方針をもち、個性豊かな点が一番の特徴です。都立高校では男女共学ですが、私立高校では共学校の他に、男子校、女子校もあります。また、受験向けのカリキュラムを組む進学校、系列大学や短大に優先入学できる付属校、就職に有利な履修をすることが可能な専門課程をもつ高校などのさまざまなタイプがあります。

☆都立高校と私立高校の違い

	都 立	私 立
特 色	男女共学で、普通科以外にも多くの専門学科がある。全日制だけでなく、定時制が多く、通信制もある。学年制だけでなく、コース制をとる学校も多い。進学や就職に力を入れたり、グローバル人材や専門家の育成に特化した学校など、さまざまな特徴がある。	沿革、校風、教育方針等、どの学校も特色をもっている。宗教系の学校では宗教の時間もある。また大学付属校は、その大学へ推薦入学や優先入学ができる。(ただし成績による) 共学の他に、男子校、女子校がある。
選 抜 制 度	一度に一校しか出願できない。 産業技術高専とは同時に出願できる。 受検科目は国・社・数・英・理の5科。 (3教科と実技の学校もある) 前期と後期に分割募集する学校もある。	一般入試は、複数受験が可能。 受験科目は国・英・数の3教科の高校が大半である。また、面接も実施されている学校が多い。 第一希望入試・一般入試併願優遇制度がある。
推 薦 制 度	学科によって割合が決まっており、その範囲内で各高校が募集する。 選考は推薦書、調査書、個人面接(自己PRカード)、集団討論、小論文、実技等によって行われる。人物面(出席状況等も)、目的意識がかなり重要視される。 一般推薦のほか、文化・スポーツ特別推薦もある。倍率はおよそ3倍程度。	面接や小論文も含めて、人物重視される。 中学校の成績が、高校の指定した条件を満たしていることが必要である。 出席状況(遅刻早退)も重視される。 適性検査を行う学校も多い。 スポーツ(文化)推薦などを実施している学校もある。 適性検査の結果によるが、合格率は高い。
費 用 前 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・受検料 全日制 2,200円 定時制 950円 ・入学料 全日制 5,650円 定時制 2,100円 ・授業料 全日制 年額 118,800円 定時制 年額 32,460円 <p>初年度納入 平均25~30万円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受験料 約22,000円(平均) ・入学金 約25万円(平均) <p>都立合格発表後まで納入を待つ学校もあるが、期限までに納入しないと棄権とみなされる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業料 年額 約44.1万円(平均) ・施設費等 年額 約21万円(平均) <p>初年度納入 平均90万円(東京都)</p>

(この他に、指定服、体育着代、教科書代、実習費(工業等)などが必要である。)

服 装	服装は自由の学校もあるが、制服を指定する学校が多い。	ほとんどが制服を指定している。
-----	----------------------------	-----------------

※高等学校等就学支援金のほか、高校生等奨学給付金、私立高等学校等授業料軽減助成金事業、その他の修学支援策として家計急変への支援、学び直しへの支援、各都道府県が独自に実施する高等学校等奨学金等の事業があります。それぞれの詳細やお問い合わせ先については、「高校生等奨学給付金」「その他の修学支援策」のページでご確認ください。

<教育内容による主な分類>

高等学校では、その「学科」により勉強の中身や将来の方向が違ってきます。学科とは、その高校での学習内容を示す名称です。都立高校や私立高校にある一般的な学科についてその種類を確認しておきましょう。

1 普通科

中学校時代に学習した一般教科の学習を中心に、幅広い教養を身につけることを目標としています。卒業後は他学科に比べると、大学や短大に進学を希望する生徒が多いようです。普通科の中には、専門的な教科も勉強できるコース制の高校もあり、理数コース、英語コース、美術コース、体育コースなどがあり、普通科で勉強しながら自分の得意分野を伸ばしたい人などに向いています。

2 専門学科

普通科目の他に、その学科に関連した専門科目を勉強するのが専門学科です。

理数科、英語科、音楽科、美術科、体育科などがあります。各学科とも専門科目は大学の勉強での基礎となります。とくに、私立高校にある理数科や英語科は、数学、理科、英語などの受験科目をより深く勉強するカリキュラムになっていることが多いです。

工業高校や商業高校などには、卒業後に専門的な職業につくためや、専門的な分野に進学するための勉強をする学科が設けられています。工業、商業、農業、家庭、水産に関する学科や、科学技術、情報、などがあります。進学に重点を置く専門学科も多いです。

3 総合学科

普通科目に加えて、自分で科目を選択して多様な専門分野の勉強ができる学科で、普通科と専門学科の中間の学科です。高校で勉強する教科の約半分が選択教科で、それぞれの学校に、他の高校では学べないユニークな授業があるようです。技術系、コンピュータ系や芸術系、スポーツ系、進学系など、科目の選択のしかたによって大学進学から就職まで対応できる学科です。

<授業時間による分類>

1 全日制課程

中学校と同様に、昼間学ぶ3年制の高校です。

2 定時制課程

変則的な登校時間を設定した高校です。夜間だけでなく、昼夜間定時制もあります。原則は4年制の高校ですが、単位制など一部の学校は3年間で卒業も可能です。

3 通信制課程

自学自習を前提とした高校で、自分で勉強した結果をレポートで提出し、添削指導を受けながら学習を進めていく高校です。定期的に登校し、直接先生から授業や面接を受け（スクーリング）、ホームルームやクラブ活動・学校行事に参加します。原則は4年制の高校ですが、単位制など一部の学校は3年間で卒業も可能です。

II 高等専門学校

工業に関する専門的な知識の習得とともに、実践や体験を重視した5年間のものづくり教育を行う学校です。卒業後は2年間の専攻科や、さらにその上の産業技術大学院大学にも進学可能であり、高度専門技術者を目指した9年間の一貫教育も選択できます。

都立産業技術高等専門学校〔ものづくり工学科（8コース制）〕品川キャンパス・荒川キャンパス

III 都立職業能力開発センター

自分の適性を生かし、安定したゆとりある生活をしていくためには、優れた技術をもっている必要があります。学校を卒業して新たに就職しようとする人が、個性と適性に応じて職業に必要な技能と知識を習得していくための施設です。募集案内は、職業能力開発センター（各校・分校）、ハローワーク（公共職業安定所）で配布されます。

中央・城北職業能力開発センター 飯田橋校 文京区後楽 1-9-5 03(5800)2611

IV 専修学校

専修学校は、職業もしくは実生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的とした学校です。

入学者の学歴・年齢から高等課程（中学校卒業後）、専門課程（高校卒業後）と一般課程（社会人向け）の3つに区別されます。専修学校の学科を大別すると、工業関係、農業関係、医療関係、衛生関係、教育・社会福祉関係、商業実務関係、家政服飾関係、文化教養関係、デザイン・マスコミ関係などがあります。

修業年限は1～5年。専門資格をとりながら大学受験資格をとる学校や高校卒業資格をとる高等専修学校（この場合、通信制の高校にも籍を置くことになる。修学年限は3年）もあります。専修学校への出願や選考は、学校によりさまざまですが、選考を随時行い、定員を満たし次第締め切るという学校が多いです。

第3章 都立高等学校の概要

今後発行される「令和5年度 東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」をご覧ください。

第4章 私立高等学校の概要

I 私立高等学校を選ぶにあたって

私立高校は各校とも特色ある教育を目指しています。独自の校訓・教育方針をもち、教科指導や部活動を中心にそれを実践しています。そのため、校風もさまざまですが、生活面の指導では一般的には厳しく厳格な学校が多いようです。最近は男女共学校としてリニューアルする学校も増えてきて、共学校を希望する場合の選択肢もぐっと増えています。

大学付属校への進学については、優先的に大学に進学できる学校がほとんどです。ですから、付属している大学に、将来的に自分の希望する学部があるかどうかを確認することです。また、他の進路の可能性も視野に入れて、考える必要があります。

II 私立高校の選抜

1 推薦入試（昨年度の実施状況をもとに）

（1）推薦（単願推薦・A推薦・推薦I・・・学校により呼称が異なります）

その学校を第一志望とし、合格したら必ず入学するという条件で一般の受験生よりも優先的な扱いをする制度。中学校長の推薦が必要で、この推薦入試を受ける人は、他校を受験することはできません。合格したら、必ず進学します。

※すべての私立高校に設けられている制度ではありません。

☆基準重視型・・・基準に合えば可能性が高い学校

☆適性検査重視型・・・数値的基準は低いに適性検査により不合格になることがあります。

■出願日：令和5年1月15日頃から。（都内）

提出書類：願書、調査書、推薦書（願書一式は各自、高校で入手する）

■入試日：令和5年1月22日頃から。

面接、小論文など。（学校によっては、その他適性検査）

■発表日：試験当日～2日後が多い。掲示、書類手渡し、郵送、Web上で発表される。

推薦（単願推薦・A推薦・推薦I）入試の基準

- 1 推薦を受けようとする高校を第一志望とすること。（したがって都立校はもちろん、他の私立校もいっさい受験することはできません）
- 2 学業成績が良好で意欲があり、また素行面でも良好で、中学校長が推薦する者。
- 3 3年2学期の評定が一定の基準に達している者。
（適性検査を実施しない高校では、基準に達していれば合格する可能性が高い

（例1） 9教科合計が30以上、1がないこと

（例2） 3教科（国数英）合計が10以上で、9教科合計が29以上

（例3） 5教科に2がなく、9教科合計が27以上

（例4） 国英社が4以上、他の6教科が3以上

- 4 欠席日数、遅刻、早退回数が少ないこと。

例) 3年2学期までの欠席日数10日以内。遅刻、早退は3回で1日とみなす。

※第一希望入試（一般入試）：推薦の基準には達していないが第一志望の場合で、一般入試の得点に加点措置するなどの優遇措置がとられます。合格した場合は、必ず入学します。

(2) 特待生推薦

とくに優秀な生徒は入試相談や入試得点の結果により入学金や授業料を免除、軽減する制度です。単願推薦だけでなく併願受験でも特待生審査する学校も目立ってきました。

(3) スポーツ(文化)推薦

受験校が第一志望で、中学校内外での活動実績(都大会入賞など)が優れていると認められた場合に受けられる制度です。高校に入ってもその優れた技能を生かしたい人には有利な制度です。もちろん学力も一定の基準が設けられています。

2 一般入試

学区制はありませんので、どの高校でも選べます。また、受験日の違う高校もあり、複数校の受験も可能です。合否は学力試験(国・数・英)の得点と面接、および調査書で決められる高校が多いです。調査書ではとくに、行動の記録欄や、特活、出欠状況の欄が重視されるので注意する必要があります。

どの私立高校も入試得点以外に、面接試験を行うのが特色です。面接を通して、本人の性格、生活態度、習慣、言葉づかいなどが判断されるので、これらについては日常から心がけておく必要があります。

私立高校は、独自の校風や、雰囲気をもった学校が多く、大学付属校、共学校、男女別学校など、内容にも大きな差があります。また、宗教教育、特徴のある教育を行っている学校もあるので、直接学校を訪問するなどして校風や教育方針などをよく調べて志望校を決定する必要があります。

<一般入試日程(昨年度の実施状況をもとに)>

- 出願 : 令和4年1月25日から。
提出書類: 願書、調査書、(願書一式は各自、高校で購入)
- 入試 : 令和4年2月10日から(都内)
国・英・数の3教科、面接、小論文などが多い。(5科・4科もある)
- 発表 : 受験当日または1~2日後が多い。
掲示、書類手渡し、郵送、Web上で発表されます。
- 手続き日: 発表当日~3日中が多い。延納手続き制度がある高校は、手続きによって、費用の全額または一部を都立高校の一次発表日まで待ってくれます。

一般入試併願優遇制度

2月の一般入試で、受験校が第2、第3志望でも基準に見合う成績があれば優遇措置がとられます（入試得点に加点をする学校が多い）。あくまでも優遇制度なので、入試の得点が基準に達しなければ合格することはできません。併願優遇制度を設けていない高校もあります。

①**公立併願** 第1志望が**都立高校**で、都立に進学できなかったときに進学を約束することで優遇措置がとられる制度です。**都立高校の分割後期・2次募集**に挑戦したい人は利用できません。

②**公私併願** 第1志望の高校が**都立でも私立でも**、優遇措置をとる高校もあります。

<例>

ケース1：第1志望…都立A校 第2志望…私立B校→公立併願

ケース2：第1志望…私立C校 第2志望…私立D校→公私併願

ケース3：第1志望…都立E校 第2志望…私立F校 第3志望…私立G校→公私併願

ケース4：第1志望…私立H校 第2志望…私立I校 第3志望…私立J校→公私併願

併願校は、進学するかもしれない学校なので、慎重に選んでほしいです。気に入った併願校を選んでおくことで、安心して第1志望の高校に思う存分挑戦することができます。都立が第1志望の人でも、早いうちから併願する高校を考えてもらいたいです。

第5章 奨学金制度（奨学生募集のご案内）

高等学校に進学を希望する者で、成績がよく、心身が健全でありながら、経済的な理由によって進学困難な人に、就学に資金を貸し付ける奨学金制度があります。参考までに以下のものがあります。奨学金の案内は、学年便りなどで、お伝えします。奨学金制度を考えているご家庭は、ご相談ください。

1. 交通遺児育英会の奨学金制度について

- ・応募資格

保護者等が道路における交通事故で死亡したり、著しい後遺障がいのために働けないため教育費に困っている家庭の子女であること。

2. あしなが高校奨学金について

- ・令和元年度から「貸与+給付」型に変わりました。

- ・応募資格

保護者等（父または母）が、病気や災害（道路における交通事故を除く）もしくは自死（自殺）などで死亡、または保護者が1～5級の障害認定を受けていて、経済的な援助を必要としている家庭の子ども。

3. 浅草観音にいむら育英会

- ・申込資格 東京都内に居住していて、健康で高校進学の志望をもち、経済的には奨学金の貸与を受けなければ進学できない家庭にある者。

4. 東京都育英資金奨学生について

- ・対象者 都内に住所があり、令和5年4月に、「高等学校」または「専修学校(高等課程)」に進学を希望している中学校3年生。

5. 文京区奨学金

(本年度要項が未だ届いていないため下記一時金等は昨年度の参考としてのせています。)

□入学一時金 (昨年度) 公立 6万円 私立 10万円

□募集受付 未定 (昨年度 10月)

□書類提出 未定 (昨年度 1月上旬)

(問い合わせ先) 文京区役所総務課庶務係 電話直通 5803-1291

第6章 推薦制度を利用した受験について

(都・私立共通)

1 推薦入学試験への出願基準

- (1) 第1志望であること。
- (2) 志望する上級学校が定める推薦基準に該当すること。
- (3) 中学校在学中に何事にもよく努力し、きちんとした学校生活を過ごしていると認められること。
- (4) 志望する上級学校への志願理由が明確であり、入学後も学校生活への意欲が顕著であると認められること。

2 推薦決定までの手順

- (1) 推薦については、学年会で検討します。
- (2) (1) で適格であるとされたものを推薦委員会に推薦します。
※推薦委員会は校長、副校長、各主幹(主任)、各学年主任、当該学年担当で組織します。
- (3) (2) で推薦可とされたものを職員会議に示し、校長が最終決定します。

※文化・スポーツ特別推薦、部活動等の推薦についてもこれに準じます。

この推薦制度を利用するためには、今までの学校生活・態度も、制度利用のための基準となりますが、それ以上に大切なのは今後の学校生活をどのように改善し、充実させるか、そして真摯な態度で臨むかにかかってきます。

